

南房総地域災害支援 Situation Report 2019.11.17

この秋、東日本を立て続けに襲った三つの台風によって、千葉県は甚大な被害を受け、被災者は台風 15 号、19 号、21 号の三重苦を味わいました。台風 15 号では、強風により、多くの屋根が飛ばされ、全半壊と一部損壊の住宅被害が続出しました。そのひと月以内に関東地方を縦断した 19 号によって、強風で新たに屋根や壁の一部が落ち、釘と木材で打ち付けていたブルーシートも梁ごと剥がされました。そしてさらに、その 2 週間以内には台風 21 号に伴う大雨によって、剥がれた屋根の隙間から雨水が入り込みました。

10 月末に館山市社会福祉協議会がボランティアセンターを閉めて以来、被災地で支援活動が続いているのは、内外からの支援団体や NPO だけになりました。工業者が入るまで半年待ちという中、風当たりが強い海沿いの集落では、強風が吹く度にブルーシートがめくれられ、何度もかけ直さなければなりません。このように、ブルーシートの限界も知られるようになり、支援団体の間では、専門業者が入るまでの応急処置として、ブルーシートに代わる代替案や住宅のカビ対策について、話し合いが始まっています。最初の台風 15 号の直撃から 2 カ月、地域の中では、既に住宅が解体された土地、修理が完了した住宅、まだブルーシートがかかったまま業者を待つ住宅、保険に加入しておらず、修理する予定がない住宅が混在しています。

そこで、館山市内でも被害が大きかった富崎地区では、次段階の支援を行う前に、どの世帯にどのようなニーズがあるのかを確認しようと、地元 NPO「おせつ会」が企画した 3 日間の全戸調査に私達も参加することにしました。また、2 日目の調査には、地元の館山聖アンデレ教会（聖公会）から吉川司祭夫妻と信徒の方が一緒に参加して下さいました。

今回の聞き取り調査を通して分かったこととして、想像以上に空家になっている住宅が多いこと、一人暮らしの高齢者世帯が多いこと、被害が大きい家と全く無傷の家が混在していること、多くの住民が住宅のカビ対策を行っていないことでした。先日の TV ニュースでも報道されていましたが、この地域でも被災した高齢者が家をあきらめ、土地を離れ始めています。このままでは、コミュニティ崩壊の危険性があり、それを食い止めるためにも、住宅修繕とブルーシート代替策を進めなければなりません。

この全戸調査の結果は、集計後、参加団体間で共有され、今後の対策について話し合われます。CWS Japan では、地元 NPO と連携し、この地区に対して引き続き支援を行っていきます。



1. 調査に出かける前のブリーフィング



2. 聞き取り調査に出発するボランティア



3. 各世帯を回って聞き取り調査



4. 調査に参加して下さった地元教会（聖公会聖アンデレ教会）の吉川司祭夫妻